

みなとまち新潟 歴史探訪④

問 歴史文化課

☎025-385-4290

「地図にない湖」 ～亀田郷の今昔

美しい穀倉地帯が広がる鳥屋野潟南部地域は、公共施設や商業施設、工業団地などが次々と開発され、発展する新潟の姿を見せています。この地域を含む信濃川・阿賀野川・小阿賀野川などに囲まれた低地「亀田郷」は、江戸時代には「横越島」と称され、大部分が「あしぬま芦沼」と呼ばれる低湿地でした。

当時から有力農民などによる新田開発が進められ、人々は腰まで水に漬かる深い田で懸命に米作りを行ってきました。近代になっても、村単位で小型排水機を設置したり、河川改修を行ったりするなど、排水に努めました。しかし、ひとたび洪水が起これば、全ての努力が水の泡となってしまいました。

昭和23(1948)年に完成した栗ノ木排水機場がこの地域の水位を下げ、さらに大規模な土地改良や区画整理などが進んだことで、亀田郷は美しい穀倉地帯へと変貌しました。現在は栗ノ木排水機場に代わって親松排水機場が毎秒60m³の排水量で常時稼働し、地域を水害から守り美しい環境を維持しています。



田舟を使った稲刈りの様子
(本間喜八氏撮影・新潟市歴史博物館提供)



東洋一といわれた栗ノ木排水機場
(亀田郷土地改良区蔵)